

## 産業建設委員協議会記録

開会年月日	平成23年9月12日
開会時刻	午後 1時 0分
閉会時刻	午後 1時15分
出席委員名	◎山根隆司 ○福井輝夫 辻 孝記 広 耕太郎
	品川幸久 上田修一 小山 敏 山本正一
	世古口新吾
	宿 典泰 議長
欠席委員名	
署名者	
担当書記	中野 諭
協議案件	サン・サポート・スクエア伊勢への企業の進出について（報告案件）
説明員	産業観光部長、産業観光部参事

## ☆協議経過並びに概要

山根委員長開会宣言及び会議成立宣言後、直ちに会議に入り、「サン・サポート・スクエア伊勢への企業の進出について」産業観光部参事から説明を受け、若干の質疑を行った後、協議会を閉会した。

(開会 午後1時0分)

### ◎山根委員長

ただいまから産業建設委員協議会を開会いたします。

本日の出席者は全員でありますので会議は成立いたしております。

それでは会議に入ります。

本日御協議願います案件は、「サン・サポート・スクエア伊勢への企業の進出について」の報告案件であります。

それでは当局のほうから報告をお願いいたします・・・都市整備部長。

## サン・サポート・スクエア伊勢への企業の進出について

### ●中井産業観光部長

委員の皆様方には大変御多用の中、また本会議でお疲れのところ産業建設委員協議会をお開きいただきましてまことにありがとうございます。

本日は御協議いただきます案件は、ただいま委員長さんのほうから御案内いただきました、「サン・サポート・スクエア伊勢への企業の進出について」でございます。

詳細につきましては、担当参事から御説明を申し上げますのでよろしく願いもうしあげます。

### ◎山根委員長

・・・産業観光部参事。

### ●奥野産業観光部参事

それでは、サン・サポート・スクエア伊勢への企業の進出につきまして御報告申し上げます。

はじめにサン・サポート・スクエア伊勢の設置の経緯につきまして若干御説明申し上げ

げます。

市の企業誘致・用地でありますサン・サポート・スクエア伊勢を含む朝熊山麓事業地は、国の「ふるさとづくり特別対策事業」の採択を受け、昭和 63 年度から平成 4 年度にかけて開発を行い、平成 6 年には「世界祝祭博覧会」が開催されたところでございます。

その後、この事業地の利用について検討を行い、アリーナ南側の高台部分につきましては、サン・サポート・スクエア伊勢と称し民間活力を導入するゾーンとして位置づけ、企業の誘致活動を行ってきたところでございます。

また、平成 19 年度、20 年度には排水・道路機能の拡充等のインフラ整備、本年 1 月には、近傍地域と比較いたしまして地価に割高感ございましたことから価格改定を行い誘致に努めてきたところでございます。

それでは、今回のサン・サポート・スクエア伊勢への企業の進出につきまして御説明申し上げますのでどうぞよろしく願いいたします。

かねてより立地交渉を進めてまいりました「ヤマナカフーズ株式会社」から本年 9 月 1 日付けでサン・サポート・スクエア伊勢の事業用地譲渡の申し出がございましたので、その企業進出の内容につきまして、配付させていただきました資料に基づき立地の概要につきまして御説明申し上げますのでよろしく願いいたします。

配付資料 1 の 1 ページをごらんいただきたいと存じます。

まず（1）の「進出企業の概要」でございますが、企業名につきましては、ヤマナカフーズ株式会社でございます。

本社所在地は、三重県伊勢市村松町 3745 番地、代表者は、代表取締役社長、山中明氏でございます。

創業につきましては、大正 12 年でございまして、平成 3 年 1 月に現社名に商号変更をされております。

資本金は、2,400 万円、株式の上場の有無につきましては、非上場でございます。

年間売上高につきましては、平成 22 年 5 月から平成 23 年 4 月までの平成 23 年 4 月までの平成 23 年 4 月期で 41 億 7,200 万円でございます。

平成 23 年 8 月現在の従業員数につきましては 114 名でございます。

事業の内容につきましては、食料品製造業で、ひじき、わかめ、昆布、あらめ等の海藻加工業でございます。

同社の、海藻製品の生産量は全国でもトップレベルであり、国内シェアにつきましては、ひじきが約 20%、わかめが約 5%、昆布が約 4%、あらめは約 15%で、年間総生

産量は6,070トンでございます。また、同社は消費者ニーズに対応した安心・安全な商品作りに努めるとともに、三重ブランドに認定されております「伊勢ひじき」の安定した生産にも貢献されている企業でございます。

続きまして(2)の「進出計画」の概要でございますが、今回の進出計画は「わかめ、ひじき」の生産能力の拡大に伴う事務所・工場、原料保管庫等の増設でございます。

進出場所につきましては、資料3ページ「サン・サポート・スクエア伊勢進出予定位置図」をごらんいただきたいと存じます。

朝熊山麓の市所有地サン・サポート・スクエア伊勢のA-5、A-6、A-7区画で、面積は9,816.51平方メートルでございます。

恐れ入りますが資料1ページに戻っていただきたいと存じます。

「第一期計画(予定)」といたしましては、鉄骨造一部3階建て延床面積4,927.9平方メートルの事務所・工場・原料保管庫等を整備されるもので、平成24年1月に「建設事業に着手」し、同年8月に「操業開始」を予定していると同っております。

投資計画でございますが、第一期の設備投資価額につきましては、土地につきましては、1億4,350万7千円、以下、建物・償却資産につきましては、現在の概算でございますが、建物につきましては、約3億5千万円、償却資産につきましては、約1億円の合計5億9,350万7千円の計画であると同っております。

工場等の配置につきましては、資料4ページ「立地配置図」をごらんいただきたいと存じます。

第一期の工場等の建設につきましては、青色の箇所でございます。

図面左下、一階建ての原料保管庫1,398.9平方メートル、右下の3階建ての工場、事務所棟の3,529.0平方メートルでございます。

なお、上の除湿庫・冷凍庫・将来増築の工場等につきましては、第二期平成29年度操業予定で建設を計画していると同っております。

資料1ページに戻っていただきたいと存じます。

下段の生産計画につきましては、生産予定数量で平成23年4月期対、平成28年4月期対比で30%の増産を計画されております。

続きまして、資料2ページをごらんいただきたいと存じます。

新工場の雇用従業員につきましては、18人で、新規雇用につきましては5名であると同っております。

また第二期計画では、おおむね5年後には、先ほども申し上げましたが、工場、除湿庫、冷凍庫の増設を考えておられ、新規雇用につきましては10名を予定されていると

のことでございます。

同社のサン・サポート・スクエア伊勢への進出は、生産能力の拡大をすること、安定した商品供給をするため災害に強い工場の整備すること、より一層の衛生管理を充実した生産体制を構築することと伺っております。

特に3月11日の東日本大震災の現状を直接見られサン・サポート・スクエア伊勢については標高28メートルの高台に位置し、交通アクセスも良いことから、「工場進出の最適地と判断し」最終的に立地決定に至ったと伺っております。

これによりまして、地域における新たな雇用の場の創出、地域振興はもとより地場の食品産業の活性化に大きく寄与されるものと期待するものでございます。

また、今回の立地につきましては、サン・サポート・スクエア伊勢への立地第一号でございます。これを契機として次の企業の進出につながるよう、今後も引き続き努めて参る所存でございますのでよろしくお願いいたします。

それから、今後の予定でございますが、この9月16日に企業立地協定書の調印、その後、9月21日に土地売買仮契約書の締結を予定いたしているところでございます。

なお、仮契約締結後、「伊勢市議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例」の規定に基づきまして、本9月議会定例会におきまして財産処分の議案を提出させていただき、御審議を賜り、議決をいただきたいと存じ上げますのでどうぞよろしくお願いいたします。

以上、サン・サポート・スクエア伊勢への企業の進出につきましての御報告とさせていただきます。何とぞよろしくお願い申し上げます。

#### ◎山根委員長

ありがとうございます。ただ今のこの件は報告案件でございますが、何か御質問がありましたら、御発言をお願いします・・・山本委員。

#### ○山本委員

ちょっと聞いておきたいんやけど、これ売却するということやわな。それで、これ3区画売却するわけやろ。ようわからんのやけれども、もし売却をする、そうするとこれ企業の土地になるわけやんな。そうするとこの企業が将来的にもしこれしたときはどうなるんやな。どうなるかちょっとわからんのでお尋ねするんやけれども。

◎山根委員長

・・・産業観光部参事。

●奥野産業観光部参事

今後仮契約をして、本契約をお認めいただいでですね、条件の中には、当然企業の倒産というのは、あれですが、今後10年間は要するに譲渡してはならないという契約条項を設けております。

それからもう1つですね、製造業で投下固定資産が5千万円以上で、従業員が5名以上でございますので奨励金に該当します。奨励金はですね、土地奨励金につきましては30%を翌年度、要するに奨励金として交付させていただきます。ただ、その奨励金につきましても、奨励の要するに交付用件の中で10年間ですね、操業が続けられない場合には、返還をさせていただくというような条件をつける中で、対応をさせていただきたいと考えておりますのでよろしくお願いたします。

◎山根委員長

・・・山本委員。

○山本委員

いやいやそんなことよりも、結局さ、これ恐らく普通の土地の売買であると、ようわからんな、これを市が売る、お金もらう、それと同時に担保を入れていくと思うんさな、僕よくわからんけど。ここが、ヤマナカフーズが今度建物を、これ3億からかけていくんやで、担保を入れて、また金を引っ張ると思うんさな。その時に10年間売買できやんで、向こう、売買はせえへんわさ、まあ仮に倒産したときに市の対応なんかはどうするんやろなと思って。それでこれを、今度は担保を入れておるで、当然そこがとっていくわな、この土地は。そうすると、ここはもうばら売りしていくか、僕はよくわからんな、全くわからんけれども、そういうこともやっぱり考えながら石橋をたたいてやっていかんと、またとんでもないようなことが起こってくるとき、ええことやんな、ええことなんやけれども、そこら辺の考えをどこら辺までもっておるのかなというお尋ねをしておるわけや。

◎山根委員長

・・・産業観光部参事。

●奥野産業観光部参事

今回の申請にあたりましてですね、ヤマナカフーズさんの、当然財務状況等も調べてチェックさせていただいております。ただ、将来のことですと、何がおきるかわかりませんが、今のところ私が先ほど言わせていただいたような、担保的な、まあ当然担保設定も、要するに抵当権の設定もできるわけですので、その辺ですね・・・、あくまでも企業誘致でございますので、他市の状況を見ても、それ以上ですね、担保を取ることが非常に難しい部分がございますので、状況等については、綿密に、実施後も訪問させていただいて、その辺の状況を把握する中で、長期の創業を行政としてはお願いするという御理解いただきたいと思っております。

◎山根委員長

・・・山本委員。

○山本委員

これ言うとしてもしょうがないけど、ちょっと甘いと思うよ、本当に。民間やで。そうすると担保なんかを仮にやな、担保なんかは、仮にやな、担保を取るところがもう取っていくわけやで。そうすると市は手を出せやんやんか、現実には。そうやで、そこら辺の考え方を、あなたは安全やとか言うけれども、海上アクセスでも安全やと言っておってもあんなことになったやんか、現実には。もうちょっとそこら辺の裏のほうのことを、もうちょっとやっぱし何かこう、当局側で詰めておかんとな・・・。

◎山根委員長

・・・産業観光部参事。

●奥野産業観光部参事

すいません。今回の契約は土地を相手に譲渡するわけで、「譲渡やろ」と呼ぶ者あり）譲渡です、「売るわけやんか」と呼ぶ者あり）当然ですね、お金にして1億数千万円のお金と言うのが当然、市に入ってくるわけですので。通常の売買契約と考えていただくと、後のいろんなことは、そういう場合には当然ですね、製造業の用に供する施設でございますので、仮に撤退した場合におきましても、製造業を立地していただくようなことになろうかと思っておりますので、あくまで、要するに譲渡、売買で、お金を今の時点でいただけるわけですので、その辺は御理解いただきたいと思っております。

◎山根委員長

・・・山本委員。

○山本委員

ちょっと質問の仕方が悪かったと思うんですわ。そやでお金をもらうでそれでええんやわ。土地はええけれども、今度は企業がその担保でとった、企業が今度小分けして売ったり、何やかいやしたときに、ここが企業誘致やで、そこら辺のところはどうなるんかという質問をしておって、お金のことに関しては何も心配しておらんのやわ。お金もらって売らんやで。そやで、その後の、もし何かなったときに、ここが小分けされたり、いろいろと、こう、住宅地になっていったりというようなことにならんかなという、そういう質問をしとるわけや。ちょっと質問の仕方が悪かったかな。

◎山根委員長

・・・産業観光部参事。

●奥野産業観光部参事

契約上ですね、今回の契約条件につきましては、指定要件で製造業の施設のみ使用できるとい指定要件をつけてあります。

それともうひとつですね、違約した場合にはですね、30%の違約金を徴収することになっておりますので、一定の抑止力はそれで担保できるのではないかと考えております。

◎山根委員長

他にございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

御発言もないようですので、本件についてはこの程度で終わります。

以上で、御協議願います案件は終わりましたので、協議会を閉会いたします。

(閉会 午後 1時15分)